

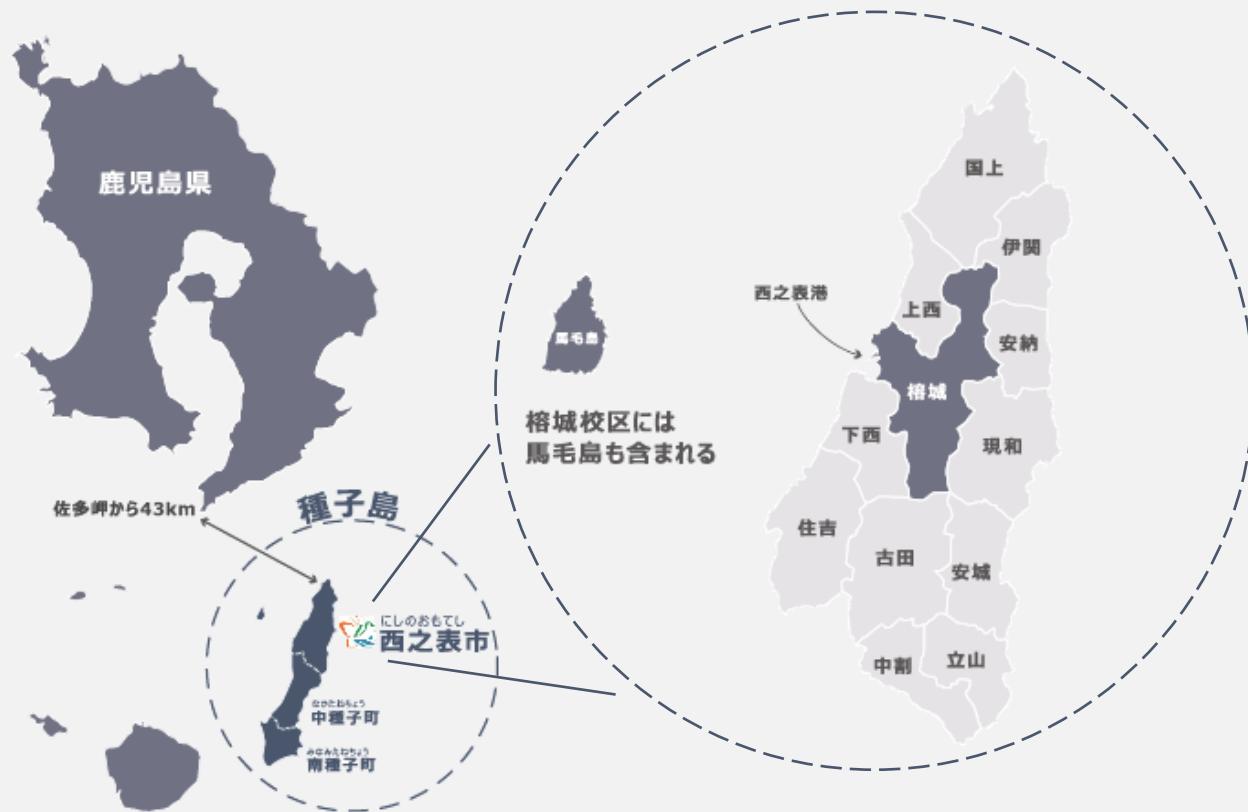
種子島西之表市榕城校区の風土記

—コミュニケーションボードの活用と検証—

地域住民と観光客に提供する、双方向性のあるコミュニケーションボードの活用と検証に向けてのトライアル

研究概要と対象地域

鹿児島本土の南部に位置し黒潮の結節点にある種子島は、中世から島津家のみならず京都や琉球王国、明との交易や交流を行っていた文化の交流地であり、多様な文化資産が存在する。それらの文化資産は、周辺の地域資源とともに重層的なその地域の持つ歴史や空間との相互的な関係性によって面的な広がりを持って構築されており、現在にも続いている。



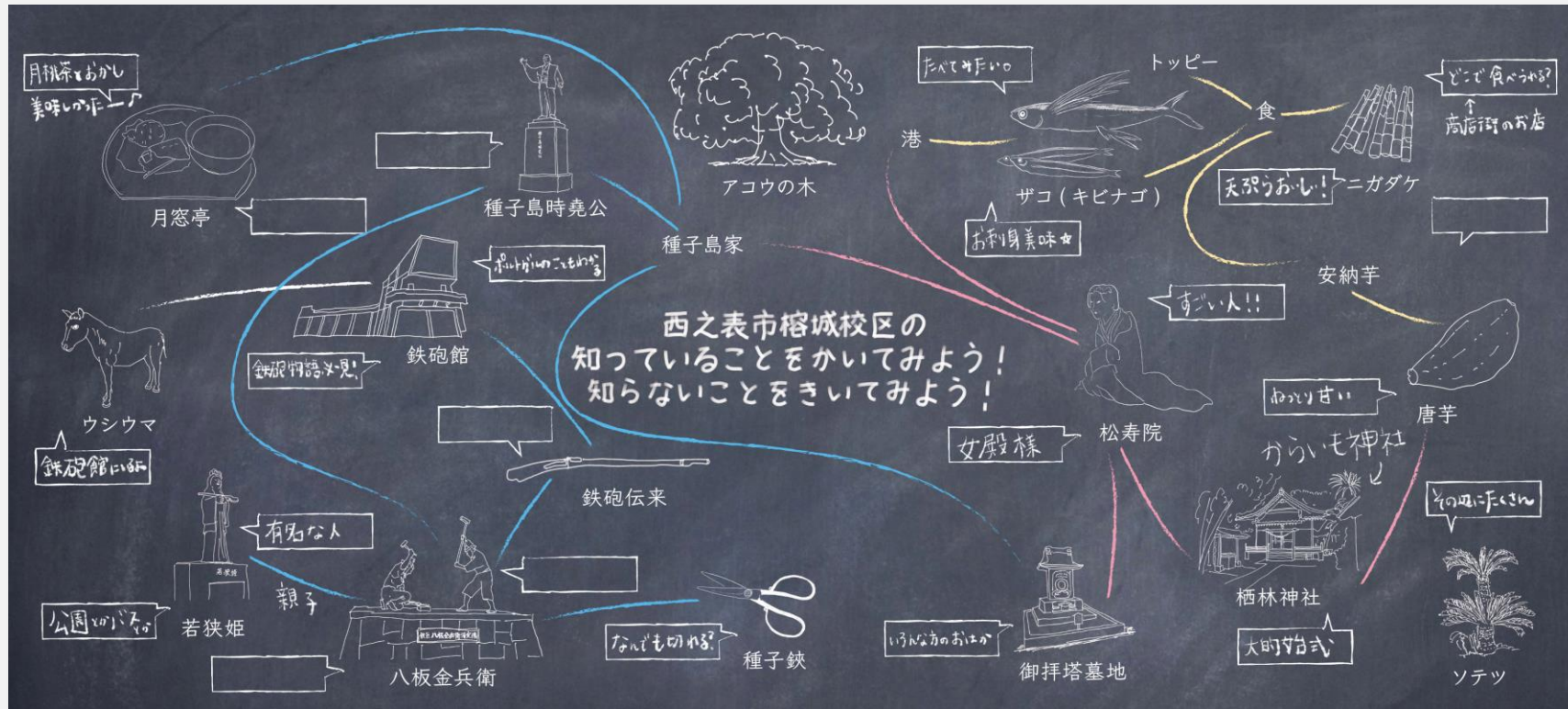
西之表市榕城校区

島の中で最も人口が集まり、古くから文化資産が重層的に存在している榕城校区だからこそ、それら文化資産は相互に影響を及ぼし合っているのではないかと考え調査を行った。個々の独立した文化資産も、その関係性への理解を深めることで受け継いでいくことができるのではないかと考え、地域住民の想いも共有できる場となるコミュニケーションボード『YOJO Re:sharing Board』を提案した。

YOJO Re:sharing Board

地域住民と観光客に提供する、双方向性のあるコミュニケーションボード

榕城校区内に設置した黒板。地域住民・観光客を問わず、訪れる人が自由に描きこむことができる。地域住民は、“地元榕城の人や観光客にシェアしたいこと”を記入し、観光客は自分の足で榕城を巡った後に、“誰かにシェアしたい情報”を記入していくことで、“榕城の情報”が自然と収集、シェア、更新されていく仕組み。



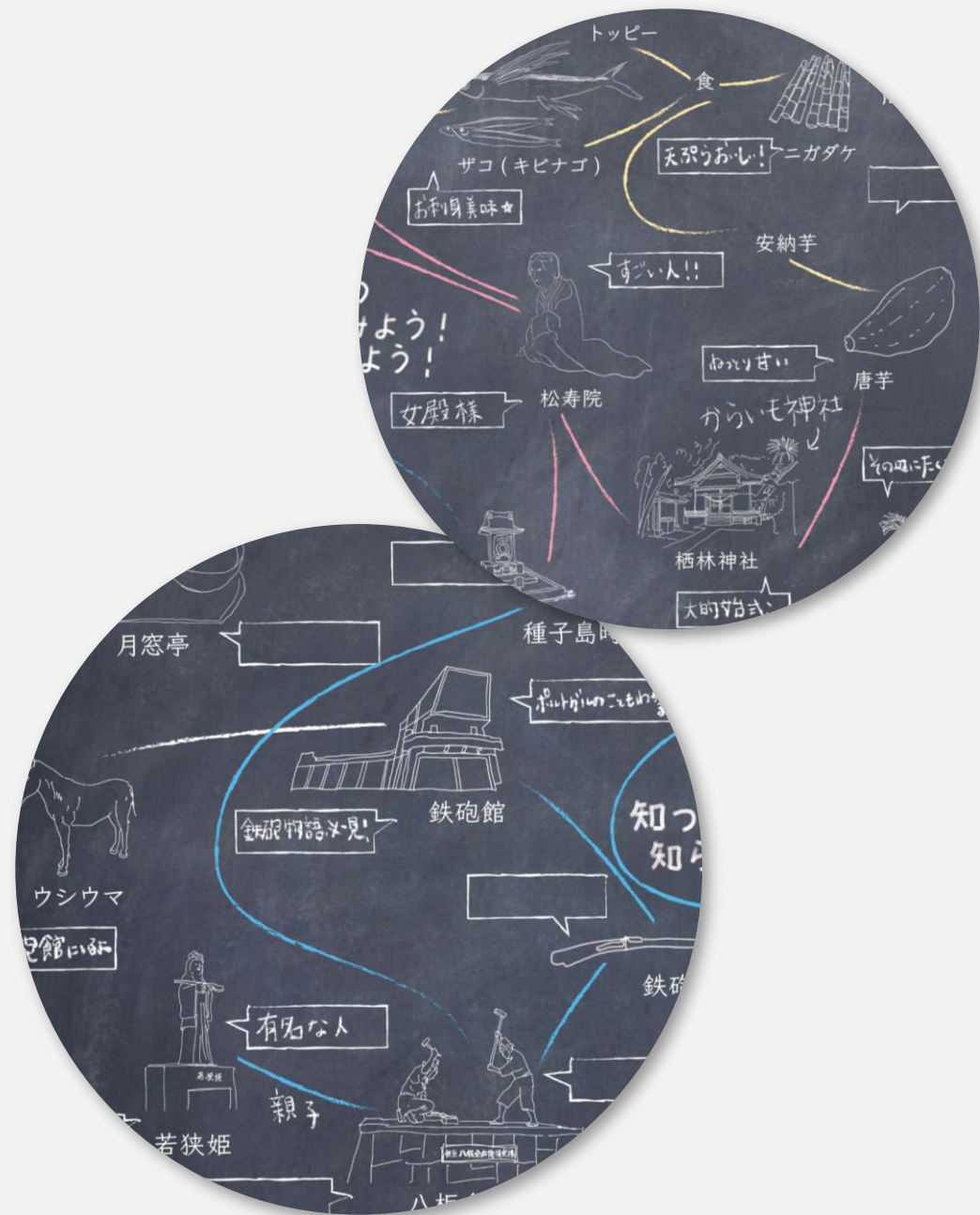
YOJO Re:sharing Board

Point1:関係性マップからのガイドライン

あらかじめガイドラインを記載することで、目に入ってくるキーワードとそれを繋ぐ線によって、体感的に榕城校区を取り巻く文化資産同士の関係性を知ることができるようになっている。

Point2:直接会ってなくても生まれる会話

『YOJO Re:sharing Board』は、自分の持つ情報を記入して共有することで、直接人と人が会えなくても、地元に関する情報を地域でシェアする“空間”として活用することが可能となっている。また、このBoardによって提供される空間は、地域住民同士よりもよりコミュニケーションが難しい観光客との間にも共有されるため、榕城校区を訪れる全ての人々が共同体として一つの情報源に触れることができる。



YOJO Re:sharing Board

Point3:補足としての観光関係性マップ

自分の足で榕城を巡り体感することができるように、Boardに記入されているキーワードが、榕城の何処にあり、それらがどのような意味合いを持っているのかを記載してある、“関係性マップに準拠した観光マップ”を設置。QRコードにより、スマホでも地図が見られるようにする。



YOJO Re:sharing Board

注意書き

このボードの趣旨、記入方法などを記載したものを置いておき、人による説明がなくても自由に描けるようにする。

YOJO Re:sharing Board

参加方法

榕城校区について、あなたが知っていること、誰かに教えたいこと、知らないこと、誰かに聞いてみたいこと、などを自由にお描きください。

- 指定のチョークでお描きください
- 黒板の中なら、どこに何を描いても構いません。
- 吹き出しを新たに描く、線を引く、絵を描く、など自由です。

注意事項

- 趣旨から外れた内容をご遠慮ください。
(管理サイドの判断により、不適切なものは予告なく削除させて頂く場合があります)
- 下記に該当するものはお描きいただけません。
 - ・個人を特定できる氏名などを本人の許可なく描くこと
 - ・特定の企業や団体、キャラクターなどを宣伝する内容 (榕城校区内の店舗情報は可)
 - ・営利目的の内容
 - ・暴力的な言葉や誹謗中傷、卑猥な内容
 - ・その他公序良俗に反する内容
- 記載内容は記録・保管のために定期的に撮影いたします。
また、記載内容および撮影した画像を、地域で使用する場合があります。
- 記載内容は、事前告知の上で一定期間ごとにすべて消し、リセットしていきます。



西之表市まちかどインフォメーションセンターでのトライアル

商店街の活性化のために市が設置しており、西之表商店街の中心地に位置しているまちかどインフォメーションセンターで実施する。ここで実施されるイベントの際や商店街を訪れる観光客に利用されることが見込まれ、ボードの管理や運用も協力いただく予定である。利用者の声とともに管理する側の意見も把握することが可能となり、精度の高い改善策を検討することが期待できる。



西之表市まちかどインフォメーションセンターでのトライアル

インフォメーションセンターに設置されている黒板を借用し、準備したイラストカードを貼り、コミュニケーションボードの活用事例のトライアルを行う。カードには、地域の文化資産を描き、それらについて知っていることや誰かに伝えたいこと、またそれぞれの関係性を自由に描きこんでもらう。

このトライアルによって、地域住民や観光客へのアプローチ方法やガイドラインのブラッシュアップを行うとともに、ボードの運用や管理にかかる問題点を把握して実装にむけて改善を行う。トライアルで地域への効果を示した上で、観光協会や商店街等との連携による実装を目指し、地域が主体的に文化資産の関係性への認識を高め、文化資産を活用して地域の価値を高めることができる取組としていく。



実現のためのスケジュール

主要アクション	R6		R7		R8	
	上半期	下半期	上半期	下半期	上半期	下半期
実装			▶			
事前調整・準備	▶					
トライアル開始		▶				
効果測定		▶				
地域との協議			▶			
補助金申請			▶		▶	▶

費用の確保（補助事業の活用）

項目	申請先	事業概要	補助内容
1) 離島人材育成基金助成事業知的支援型	公益財団法人 日本離島センター	（島づくり交流型）近隣地域も含め、島づくり・地域づくりに関連する経験や創意工夫の交流を行い、新しい可能性を探る事業。	補助率：5分の4以内 限度額：30万円
2) 離島人材育成基金助成事業研究助成型	公益財団法人 日本離島センター	離島を対象として研究した成果を島づくり活動や離島振興政策に反映し、離島地域の活性化や人材育成、課題の解決などに資する事業。	補助率：10分の10 限度額：100万円
3) 港町再生支援事業	西之表市	中心市街地において実施する地域の魅力を発信する取組や歴史的建造物等を活用する地域を活性化させる事業。	補助率：5分の4以内 限度額：200万円